

1 (平成27年度) 冬期野菜栽培品目検討試験

試験の目的

市内の直売所等においては、冬期間も地物野菜に対する顧客の需要がありますが、その時期は品薄な状態となっています。また、販売方法の多様化により冬の野菜栽培に関心を持つ生産者も増えていきます。そのため本試験では12～1月の出荷を想定し、冬期にできるだけ無加温で栽培できる野菜について調査検討しました。

関係先

市内生産者・市内直売所

供試品目 (各ハウス共通)

リーフレタス, コマツナ, 小カブ, わさびな, 玉レタス
1～2作期 (9月下旬から品目ごとには種及び定植時期を設定)

試験区設定

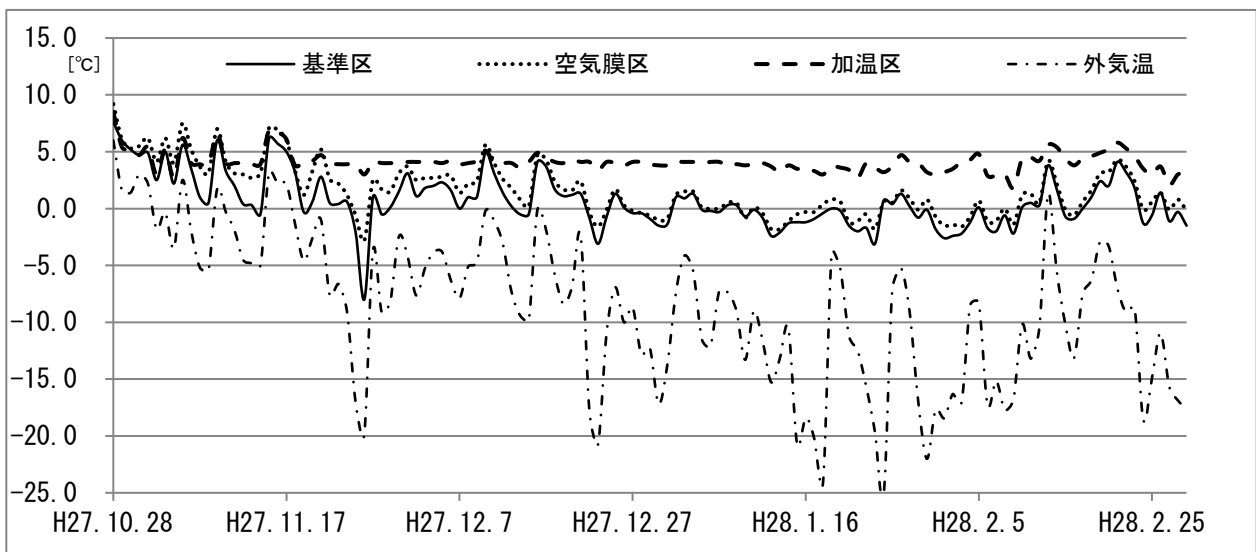
試験区名	ハウス(※)の保温設備	ハウス加温機	補助暖房
基準区	内張カーテン2層 トンネル1層	不使用	1月以降, 翌日の予想最低気温が-15℃以下の際に夜から翌朝にかけてジェットヒーターを使用(実稼動回数:6回)。
空気膜区	基準区と同設備 +ハウス天井に空気膜 二重フィルム(※)設置		
加温区	基準区と同設備	3℃設定で常時使用	不使用

※各ハウスは間口7.2m×奥行30m。

※空気膜二重フィルムについては「10 空気膜二重フィルムハウス夏期栽培調査」のページを参照してください。

調査結果

(1) 調査期間中の各区の室温推移



平成27年度は調査期間を通して、平年並みかやや暖かい傾向となりました。基準区に比べ、空気膜区は室温がやや高い傾向が見られました。

(2) 各作物の栽培結果

(結果は全て供試した品種についてのものです)

リーフレタス

品種：アーリーインパルス（みかど協和）

9月下旬～10月上旬の定植では、12月上旬から一株200g以上になりました。その後基準区では1月上旬まで、空気膜区では1月下旬までは障害等の発生が少なく、販売が可能な品質でした。



リーフレタス（12月下旬）

コマツナ

品種：陽翠（渡辺農事）

9月末は種なら11月下旬以降、10月中旬は種なら12月下旬ないし1月上旬には一株10g以上になり、1月下旬までは販売が可能な品質でした。



コマツナ（12月下旬）

小カブ

品種：ゆきわらし（カネコ種苗）

9月24日は種では12月中旬に、9月30日は種では1月下旬以降に球径5cmになりました。葉を落とした球のみの販売であれば、2月中旬までは可能な品質でした。



小カブ（12月下旬）

わさびな（中原採種場）

摘み取り栽培（葉長27cm以上の葉を収穫）としたところ、いずれの区でも12月から2月の収穫が可能でした。しかし、外気温が低くなった1月は収穫量が減りました。



わさびな（12月下旬）

玉レタス

品種：サリナス 397

9月24日定植では11月下旬以降、9月30日定植では12月上旬に全体の10%程度の株が球重300g以上になりました。その後2週間程度は良好な品質が保たれていました。



玉レタス（12月下旬）

(3) 平成28年度の取り組み

平成28年度は、平成27年度の追試験を、より低温の栽培環境で行っています。